

# 特集

## 最後まで光る風に

風連高等学校が59年の歴史に幕

### 風連高等学校の始まり

戦後の学制改革で高等学校が設立された当時、名寄周辺の町村には高等学校の母体となる中高等学校がありませんでした。北海道教育委員会では、単独で高等学校を設置できない町村に分校の設置を奨励していたことから、名寄農業高等学校、名寄高等学校が母体となって、昭和23年から昭和27年にかけて美深、下川、中川、音威子府、風連、智恵文、幌延に次々と分校が設置され、高等学校が誕生する基礎が築かれました。

風連高等学校は、名寄農業高等学校の分校という形で昭和26年に誕生しました。

### 風連高等学校の変遷

昭和26年1月15日、風連小学校を借りて、北海道名寄農業高等学校風連分校の開校式が挙行され、第1回入学生30人で授業がはじまりました。昭和28年4月北海道風連高等学校定時制普

通科)の設置が認可され独立し、

第一歩を踏み出しました。定時制・季節制・通信制課程等で生徒は、働きながらの学校生活を過ごしました。翌昭和29年現在地に新校舎が建設され、小規模ながら独立校としての体裁が生まれました。

昭和37年全日制普通科として設置許可され、同年全日制第一回の入学式が挙行されました。その後、昭和39年3月に道立移管となり現在に至っています。現在の校舎は、昭和60年6月より建設が行われ昭和62年に完成しました。

このように、風連高校は幾多の変遷を経て今日に至りました。平成2年に風連高等学校教育振興協議会が設立され生徒募集の一環として入学助成金の交付や通学費の補助、1年生の海外研修派遣(オーストラリア研修)など様々な援助が実施されました。しかし、少子化と地域・社



~ 写真上から ~

旧風連小学校校舎(上)  
旧風連高校校舎(中・下)



授業風景(昭和44年)

会情勢の変化などにより入学生の減少が続き、平成16年度より1学年1問口となりました。その後、平成19年9月に公立高等学校配置計画が北海道教育委員会より発表され、翌年度からの生徒募集停止と同時に、平成22年3月末をもって閉校することが決定されました。

風連高等学校の活動

風連高校の生徒の活動では、昭和44年の風連高校教職員有志による「ピアプフの子を救う会」の活動からその精神は受け継がれ、昭和45年から50年まで5年間続いた生徒会による「パンと牛乳の無人販売」は、当時としては画期的な取り組みで話題となりました。

部活動では、昭和46年に発足した郷土研究班（後に研究部と改称）は、風連の町がどのよう  
に開拓されたかを明らかにしようと、昭和47年より毎年テーマを設けて調査研究した成果を『開拓ノート』としてまとめ全5巻



購買に無人販売「信頼の箱」を設置(昭和46年)



マラソン大会(昭和43年)



野球部全道大会出場(昭和53年)



国内研修(平成21年)

を刊行しています。

また、昭和53年の野球部の活躍があります。春季大会地区予選の代表決定戦で稚内高校に勝ち、初の全道大会の出場権を獲得しました。全道大会は、東海大四高校に惜敗しましたが、同年の支部夏季大会の決勝戦では士別高校に勝ち、春夏連続の全道大会進出に旧風連町は、喜びで沸き返ったといえます。残念ながら一回戦、旭川竜谷高校に惜敗しましたが、その活躍は今も語り継がれています。

この他、昭和40年代から50年代にかけて、演劇部・羽球部・剣道部・庭球部・バレーボール

部などが毎年のように全道大会に進出しました。平成に入り、クロスカントリー部が全国大会に出場するなど輝かしい成果を収めています。

最後まで光る風に

平成20年9月に閉校記念事業協賛会が設立され、閉校に向けて記念事業が企画されました。その一環として、最後の卒業生6人全員が「最後まで光る風に」の旗のもと、今年度をもって共に閉校する「和寒高校との交流会」(カヌー体験)や「国内研修」(古都の見学と名寄市のPR活動)、伝統行事だった「強歩大会」の復活、さらに札幌での「芸術

鑑賞」など様々な行事を実施しました。

学び舎の歴史は途絶えても心のページに永遠なれ

開校以来59年、その時々時代の要請に応えながら教育環境を整え、生徒・教師そして地域が一体となって歴史と伝統を重ねてきた風連高校は、平成22年3月末で閉校しますが、校舎は風連中学校として活用されることと決まっています。学び舎の歴史は、確実に次代に受け継がれます。

最後の入学生で、最後の卒業生となった平成19年度入学生6人は、3月1日に挙行される第46回卒業式をもって学び舎を後にします。この間の卒業生総数は、3395人(定時制281人、全日制3114人)です。培ってきた歴史と伝統はいつまでも消えることなく人々の心の中にぎざまれることでしょう。

卒業生の皆様へ

平成22年4月1日以降(閉校後)の各種証明書の発行は北海道名寄高等学校での取り扱いとなります。